

Kume Island

Cultural Spot Guide Map



久米の息吹を感じる鳥散歩

Half Day Course ①～⑥



- 県道
- ⊗ 学校
- ⊕ 病院
- 其他の道路
- 〒 郵便局
- 🏠 宿泊施設
- 📶 信号機
- 村役場
- 🛢️ ガソリンスタンド
- ♀ バス停
- 🔄 交番・派出所

※地図に掲載されている情報は時間とともに変化することがあります。

- 🗑️ Trash Bin
- 🚻 Toilet

1 Cultural Center and Museum

常設展示室では、宇江城城跡・具志川城跡から出土した磁石や、発掘調査によって得られた中国産陶磁器などを中心に展示しており、久米島のグスクについて概観できる内容になっています。そして、展示コーナーでは具志川城跡の想定復元図が特大パネルで展示されています。



2 Chinaha Castle Ruins

(沖縄県指定史跡)
伊敷索城跡は、白瀬川下流の断崖上であって、珊瑚石灰岩の野面積みの石垣で囲われた三山分立時代(南山・中山・北山)に築かれたと言われるグスクです。平地部分に接する正面の石垣の高さは平均2m、城壁は北東から南西へ直線的に積まれているのが特徴です。城は大きく一の郭と二の郭に分けられ、高さ約1mの石垣で仕切られています。一の郭は城内東側にあり、グスク全体の四分の一の面積を占めている西側の二の郭に開いている城門は、両側の石積みか雑石の野面積みとなっていることから木造の門であったことが伺えます。一の郭跡に城の守り神としてイベガが祭られているようですが、所在は不明です。伊敷索按司は後に子供たちを宇江城、具志川、登武那覇の各城に配置して大勢力を誇ったと伝えられています。



3 Gushikawa Castle Ruins

(国指定史跡)
具志川城跡は久米島の北西海岸にあり、東側の正門跡(三の郭)以外は、30m余の断崖です。海に面した石灰岩の丘陵上に立地しています。15世紀初め、真達勃按司によって築かれたといわれ、城内は四つの郭に分けられ、郭内は低い石垣で仕切られています。城壁は安山岩の平石積み、石灰岩又は安山岩を混ぜた積み方に特徴があります。真達勃按司の子、真金声按司の時に伊敷索按司の次男、真仁古樽按司によって落城され、真金声按司は沖縄本島南部喜屋武岬近くに同名の城を築いたと伝えられます。平成11年度から始まった発掘調査では、青磁・中国古銭・陶器類などが出土し、盛んに中国と交易を行っていたことがうかがえます。



4 Uegusuku Castle Ruins

(国指定史跡)
久米島で最も高い宇江城岳(310m)の山頂に築かれた山城形式のグスクです。グスクは三つの郭で構成され、城壁は平割にした安山岩の野面積みによって築かれています。上壇一の郭の東側の石垣は城内で最も高く、物見跡といわれています。下側の郭の城壁は低く、前大戦まで城門などもよく残っていたといわれています。戦後米軍の基地内になり、復帰後に自衛隊施設に移管され、平成13年度に施設の一部が返還になり、現在では城内への出入りが自由になりました。記録によれば、伊敷索按司の長男、久米中城按司が堂の比屋の下女オトチコバラの勤めでその地に定め、築城はむくち樽金が請負い、ティヤントールという石工の協力を得て完成したとあります。尚真王代に王府軍の攻撃を受け、火攻めにあって落城したと伝えられています。これまでの発掘調査により中国製陶磁器が大量に出土しています。



5 Tunnaha Castle Ruins

(町指定史跡)
登武那覇城跡は、久米島町役場仲里庁舎の北方約500mのところにあるトンナハ山(標高120m)の南側斜面の中腹にあります。城主は伊敷索按司の三男で笠末若茶良と称され、宇江城城や具志川城の城主と異母兄と言われています。この城は他の城が山の頂上や海に面した断崖上に築城されているのに対し、山の中腹の斜面に位置し、石垣も安山岩の大石と大石の間を小さな安山岩を野面積みにしてつないでいるだけです。城内からはグスク系土器片、類須恵器、青磁片等がわずかに確認されています。笠末若茶良のことを歌ったオモロが数首あり、登武那覇城周辺の住民から慕われる人望厚い城主であったことがうかがえます。



6 Namida Rock

(町指定史跡)
涙石はソナミの烽火台跡近くにあつて、笠末若茶良の伝説にまつわる石のことです。登武那覇城に笠末若茶良という若按司がいました。若茶良は立派な風采と聡明な頭脳の持ち主で島の人々から敬愛されていました。その評判が父伊敷索(ちなは)伊敷索按司よりも良かったので、ねたみをかい、母親は出身地の粟国島へ追放され、自分の居城を伊敷索按司に攻撃される羽目になりました。武勇にすぐれた彼は、この戦いに勝ちましたが、母親の身の上を案じ、毎日ソナミの丘まで行って石の上で母親のいる粟国島を眺めて泣き暮らしていたといひます。その石の上には深さ五寸ほどの穴があつて、若茶良の涙はその穴に溜まって乾くことがなかったため涙石と呼ばれるようになりました。(又涙石は、この石とは別に近くのふもとにあつたが、護岸の石材として割られたという説もあります)



休憩処 比屋定バンタ

(町指定史跡)
比屋定から阿嘉に向かって緩やかな坂を登りつめた所に、展望台があります。このあたりを宮城鷹夫(当時、沖縄タイムス記者)氏によって、比屋定バンタと命名されました。この比屋定バンタの展望台に立ちってみると、右側には延々12kmも青海原を突っ切って延びているリーフと、その隣に横たわる白砂の美しいハテの浜が遠望できます。眼下にはエメラルドグリーン的大海と海岸線が美しく、はるか水平線には粟国、渡名喜、慶良間の島々が眺望できます。これだけの絶景を同時に堪能できる場所は数少ないとして、文化財(名勝)に指定されました。
○バンタ: 方言で崖や端を意味します。

